

# 環境教育インストラクター養成セミナー フォローアップ研修会報告 ～ かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA) ～

報告：高橋弘二

日 時： 2012年12月1日(土) 14時～16時50分

会 場： 横浜シルクセンター地下1階・中会議室

対象(呼びかけ)：平成23年1月、平成24年2月養成セミナー受講者  
および KECA 環境教育指導者リスト登録者

参加者： 12名(スタッフを含む)

主 催： かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA) 環境教育委員会

## [ 研修会内容 ]

司 会： 上野秀一

14:00～ 開会の挨拶 高橋弘二

14:10～14:50 簡単な環境学習1 (ツール紹介と実習) 岡本正義

テーマ：森、木の働きを調べよう(小学校4、5年生対象) 資料配布

(1) 森と林

(2) 森と木のはたらきとは？

はたらきの一つ「空気をきれいにする： 二酸化炭素の吸収、酸素を出す、空気のよごれを吸収する」

(3) 木が吸収する二酸化炭素の量を調べる。

「木の太さ(周囲)」 - 「葉の面積」 - 「二酸化炭素の吸収量」

(例) 100cm            400m<sup>2</sup>            1,040kg・年

\* 落葉樹、常緑樹、高中低木など樹木によって二酸化炭素の吸収量原単位は異なるが、おおよその平均値は、2.6kg/m<sup>2</sup>・年である。

(4) 計算値と人間が吐き出す CO<sub>2</sub> 量、家庭から出る CO<sub>2</sub> 量、自動車から出る CO<sub>2</sub> 量と比較して、植物のはたらきについて考えてみる。

## < 実習 >

各人、メジャー(3m)と聴診器をもらって外へ出ました。

街路樹(ケヤキ)の太さ(周囲)をメジャーで測定

聴診器を木の幹に当てて音を聞く。

よく「木が水を吸い上げる音」といわれるが定かでない。

「木の音(鼓動)が聞こえましたか?どんな音でした?」

と考えてもらい、「水を吸い上げる音」とはいわないとのことでした。

通りがかりの親子、カップルが興味深そうに覗き込み

問いかけてきたので、聴診器を貸して音を聞いてもら

いました。「聞こえたかな?」



14:50～15:10 簡単な環境学習2 高橋弘二

テーマ：「水の循環・身近な水について」 資料配布

( 1 ) 資料「水の循環」についての図を見ながら自分で理解する。( 1 分間)

( 2 ) 図を見ながら「水の循環」について、みんなに説明してもらう。

( 3 ) 質問

お天気が続き雨が降らないのに、いつも川に水が流れているのはなぜ？

川からたくさんの水が海へ流れ込んでいるが、海が溢れないのはなぜ？

横須賀（みんなの住んでいる町）に1年間で降る雨の量は？

だいたい1500～1700mmなので、先生（大人）の身長程度と教える。

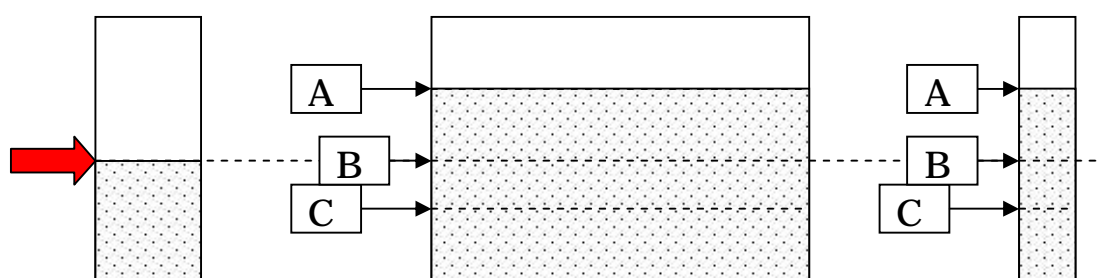
\* 降った雨の量を測った結果：赤矢印（ ）のようでした。

大きさの違う容器で測ったら、A、B、C、どの高さになるでしょう？

( )

( 大きい容器 )

( 小さな容器 )



正解は、容器の大きさに関係なく同じ（ B ）になります。

15:20～15:30 環境教育・環境学習を实践するには 高橋 弘二

最初から個人での活動は難しい。( 環境活動 ) 団体に入る ( 例えば、環境カウンセラー協議会 )  
団体の集まり = ネットワーク、協働で活動の幅を広げる。

「体験参加」 「企画・運営の手伝い」 「自分で企画・運営」・・・( 継続 )

15:30～16:45 自己紹介、活動の現状 ( 参加者全員 ) 質疑・意見交換

( 1 ) 受講後、ECU 環境教育インストラクター申請者 5 名

( 2 ) 養成セミナーのプログラムが環境教育活動に大変役立った。

( 3 ) 参加者のほとんどが、小学校での環境学習出前授業を指導者、補助で実践している。

( 4 ) 自治体が行う環境フェア、サマースクールに協力

( 5 ) 市民対象の環境 ( 教育 ) 研修、エコ検定受験対策、自然観察会の開催、事業者対象の環境  
経営コンサルタントなど

17:00～19:00 場所を変えて、交流・懇親会 ( 参加者 6 名 )



参加者の意見交換風景